

言葉の重さと責任

甲斐市立敷島中学校二年 小池 七桜

今の時代には欠かせないほど、日常に浸透しているインターネット。SNS や ネット動画など、私も毎日のように利用しています。便利な一方、使い方によっては犯罪に巻き込まれるなどの怖い一面もあります。

人権の事を考えたとき、耳にする事が増えた、SNS での誹謗中傷のことが頭に思い浮かびました。最近でも、度重なる誹謗中傷に傷つき、自ら命を絶ってしまった芸能人のニュースを目にしました。匿名をいいことに、心無い言葉で攻撃する。毎日のように誰だか分からない不特定多数の相手から誹謗中傷されたら誰だって辛くて嫌になると思います。匿名は個人のプライバシーを守るためのものであって、人を傷つけるための隠れみではありません。

今、SNS で話題になっている中学生ユーチューバー。そのメンバーの一人の子の住所特定をしたり、中学校を特定し行ってみたりする行動が相次いでいます。住所や学校を特定し何になるのでしょうか、いくらでも会う機会はあると思います。オフ会だったりライブだったりいろいろな会う機会があります。ファンだから何してもいいのではなく、ファンは推しを笑顔にするためにいると思うので推しが傷つくことをファンがやってはいけないと思います。

自分と同じ年ぐらいの子がネット上に勝手に住所を書かれ苦しんでいる、もし状況が今の自分にこの子と同じように住所をネットに公開されていたらどれだけ苦しいのか悲しいのかつらいのか考えるだけでとても悲しい出来事です。この話は、Youtuber だけの話しではありません。先日有名人が誹謗中傷によって追い込まれてしまい亡くなってしまいました。ネット上では、「そんな誹謗中傷ごときで自殺ってメンタル弱すぎでしょ」「芸能界に入ったならそんなぐらい覚悟しとけよ」など、たくさんの誹謗中傷が書きこまれていました。

ネットは正しくない情報すら正当化され、被害にあう側に数え切れないほどの攻撃としてのしかかるのです。

誰もが利用できるからこそ、そこには責任があると思います。無知の情報を載せる人もその情報を真に受ける人も、そしてそれを広める人も、その責任を考えないように感じます。

言葉の重みを考えたとき私は、小学生の時に加害者に、中学生では、被害者側になったことを思い出しました。

小学生の時は、自分と性格が合わない子に対し何気なくいった言葉で周りを巻き込んでしまい、結果、仲間外れのようになり相手を傷つけてしまいました。

中学生になって、今度は逆の立場になりました。自分はアドバイスと思って言ったことが、相手が気に入らなかったというほんのささいなきっかけが理由で、仲の良かった友達から仲間はずれにされました。他の友達に支えてもらいながら乗り切ることが出来たけれど、その時、される側になって初めて、される側の辛さの大きさを知りました。

「いじめをした方はすぐに忘れてしまう。でも、された方はずっと忘れない」という言葉は本当にその通りだと思いました。あの時の事を思い返すと、ひとりになる怖さや、下を向くと出てきた涙の感覚が鮮明に残っているからです。

今、私は自分がしてしまった過去のことを反省し、当たり前のことだけれど、出来ていなかった「悪口になるような言葉を発さない」ことを日々気を付けています。

する側にも、される側にも、それぞれ理由はあると思います。一人一人が違う性格を持っているのだから考え方や受け取り方が様々なのは当たり前のことです。その違いを意見として捉えることが出来れば良いけれど、すれ違ってしまったりぶつかってしまうことも少なくありません。けれど、「違うから」「間違っているから」と、攻撃したり拒絶するのではなく、その時に感じた気持ちを「自分に向けて」考えてみれば、傷つけてしまうような言葉や行動はなくなるのではないかと思います。また、もしも攻撃を受けてしまったときは、決して一人で抱え込まず助けを求めることが大切だと思います。

私たちは、言葉ひとつで人を死に追い詰めてしまうという事実を忘れてはいけません。

ネットでも日常でも、誰もが誹謗中傷といった攻撃のためではなく、守るためだったり、良いものを生み出すための「言葉」が使えることがとても理想だと思います。

そして、子供も大人も人種関係なく、人として、一人一人が自分の言葉の重さと責任を常に考え選ぶことが人権を守ることに繋がるのではないかと思います。